

### 1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2870800683		
法人名	有限会社 日本健康管理システム		
事業所名	グループホーム あさがお		
所在地	兵庫県神戸市垂水区塩屋町5-13-23		
自己評価作成日	令和5年6月5日	評価結果市町村受理日	令和5年8月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/28/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2870800683-00&amp;ServiceCd=320">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/28/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2870800683-00&amp;ServiceCd=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人ば・まる
所在地	堺市堺区三宝町二丁131番地2
訪問調査日	令和5年6月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>①スタッフ同志はコミュニケーションを取り、スタッフ間のトラブルが時々あるが同じ方向を目指して取り組んでいる。退職者は少ない。入居者様との関係も明るく声掛けし、良い関係性が構築出来ている。</p> <p>②入居者様の健康維持できるように支援している。まずラジオ体操に参加すること。その後のストレッチ体操(特に下肢運動)に取り組んでいる。少しでも発熱等の異常があれば早期に医療と連携を図り対応出来ている。</p> <p>③食事はほとんど手作りし、食べやすく工夫も凝らし提供している。調理の下ごしらえは入居者様ができることは日課活動として「参加する」と言う考え方をして手伝っている。デザート作りは調理器具も限られた中で炊飯器で作る美味しいケーキ等が提供できている。</p>
--

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>職員が潤滑剤となることによって、利用者同士親しいご近所付き合いのような関係性で過ごせるよう、利用者間の和やかな雰囲気作りに努められています。施設内で利用者自身が出来ることを大切に、積極的に利用者個々が自分の役割として、取組み継続することによって、生活能力・運動能力の維持に配慮されています。利用者が体を動かす支援やレクリエーションを取り入れ、楽しみながらフレイル予防への取組に繋がれるよう努められています。可能な範囲で、地域の清掃活動等に利用者と共に感染症対策に配慮した上で参加され、地域との関係性や交流が途絶えることのないように努められています。地元の利用者も複数名入居していることから、地域との距離感も縮まり、地区民生委員とも良好な関係性の構築がなされています。地域ケア会議への参加等、地域全体への社会貢献も行われています。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 評価	第三 者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は掲示板に貼ってあり、新入職者には入職時に説明し理解してもらえるように研修している。家族様に見えるように玄関ホールに掲げ、面会時目につくようにした。管理者と職員も常に目に入り共有できるようにした。	地域密着型に特化した法人の理念が定められており、利用者本位、利用者の生活の場としての支援提供に努められています。理念は、掲示されると共に、説明用のパンフレット等にも記載されています。理念に沿った、利用者が楽しく過ごせる支援の提供が意識されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月第4日曜日施設周辺の公園や道路の清掃活動をしている。 外気浴時通りかかったご近所の方には挨拶している。施設の前にあるご家族様とも挨拶や世間話等行っている。	地区民生委員との関係性が良好で、いつでも気軽に話し合える関係性が構築されています。近隣からの利用者も複数名入居していることから、地域と顔の見える関係に繋がられています。地域で行われる地域ケア会議にも積極的に参加されています。	コロナ禍の制限下において、制限されていた、地域交流の再開拡充に期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍でもあったので、地域貢献として清掃活動や地域ケア会議参加を通じて地域の方々にアピールしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を昨年秋から開催したが、まだまだ感染リスクがあったので、最低限の人数で行い、大勢の方々を招くことはしていない。今後民生委員等地域の方を招く予定。	コロナ禍の制限下において、従前のような規模での開催は困難でしたが、感染症状況を踏まえながら、可能なタイミングでは規模を縮小して開催されています。制限緩和に伴い、民生委員や家族等も含めた規模の再開拡充が予定されています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域ケア会議等に参加し、事業所の状況を報告している。 また当施設は生活保護を受けておられる方が多く、生活支援課にも状況報告している。	あんしんすこやかセンター(地域包括支援センター)との協働で、地域の方々に向けた高齢者、認知症への啓発活動開催等、地域活動も含めた連携に取り組まれており、地域ケア会議にも積極的に参加されています。利用者の権利擁護推進のため、市関係部署との連携にも努められています。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年間教育研修に年間2回組み入れています。現場等でも言葉における拘束とおもわれるような発言時は指導を行っている。 玄関は防犯上施錠している。玄関の開放により直ぐ道路に繋がりが危険なためでもある。	毎月行われるサービス担当者会議では、話し合われる支援の内容が身体拘束に該当しないかを確認し合った上で、支援計画の策定に繋がられています。年2回の職員に向けた研修が開催されています。委員会の内容は、職員間に共有されています。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年間教育研修に座学として2回組み入れている。研修報告書においてもチェックしたり、介護現場等でもその場で教育指導を行い、防止に努めている。	拘束を含めて、虐待へと発展しないよう、事例を基にした勉強会が開催されており、該当するケースに繋がらないよう配慮されています。言葉による拘束や虐待に繋がる事がないよう、言葉がけや表現方法や伝え方に意識した支援の提供を目指されています。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や人権研修において具体的に理解してもらえるように組み入れている。成年後見人制度についても、実際利用している入居者様もおられ実例を出して理解できるよう支援している。	意思決定、権利行使について必要な情報提供に努められています。家族に対して制度に関する説明にも努められており、将来の利用者の権利擁護を踏まえた話し合いが行われています。職員には毎年研修が行われ、権利擁護の大切さについて共通認識を持つ取組が行われています。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には一通り契約書・重要事項説明書など説明している。情報量が多すぎ、十分な理解は出来ないと思っている。利用者や家族様が退居等の相談になった時や疑問を持たれた時、十分な説明を行っている。	理念に沿った利用者本位の楽しく過ごせる生活の場であることを主体に、契約書と重要事項説明書の説明が行われています。医療的な面や、終末期に関する方針など、将来重要となる部分の説明に力を入れられており、また、退所時の制約や金銭的負担等トラブルに繋がりがちな項目について理解を得られる説明に努められています。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族の希望等は管理者会議や運営推進会議等で提案し反映させている。	面会時や電話連絡時に、気軽に意見が言えるよう、また、意向をくみ上げやすい話ができるように配慮する事に努められています。コロナ禍の制限下においては、面会等による聴取機会の確保がほぼ困難な状況であったため、制限緩和に伴い再開拡充される予定です。	

自己 評価	第三 者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見・提案は随時聞いている。特に毎月の全体会議やユニット会議では希望等を受け止め、その対応として他の管理者や本社に相談している。	毎月行われる全体会議にて、職員の意向や気付きの聴取が行われ、職員全体で話し合われています。利用者本位の運営に繋がるよう意識した話し合いが持てるよう努められています。法人全体に係る意見や課題は、法人の管理者会等へ具申し、検討が行われています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員等の勤務状態を管理者からの報告等で把握されている。個人面談においてもやりがいを働いているか、問題を抱えていないのかなども聞き対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画作成し、その月の研修を掲示し出席してもらえるよう工夫している。法人外の研修には個人的に提案し勧めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域において、地域ケア会議にも参加し交流している。医療関係からの研修案内等もあり、参加しサービスの質の向上に努めている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談で本人様の様子やコミュニケーションを取り、家族様の話・ケアマネジャーの情報提供内容等から入居して困っている点がないか、今の気持ちなどお聞きする。少しでも不安がないのか観察しコミュニケーションを多くとることで良い関係構築を心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談で本人や家族様の希望や在宅での困っておられる点・入居後起こりうることなどをお聞きし、少しでもトラブルなく過ごせるよう支援している。		

自己 評価	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の出来ること・出来ない事・どの様にお手伝いすれば出来るのか等見極め支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来ること・出来ない事を見極め、できることは進んで行って頂けるように声掛けやお願いしていく。職員も入居者も家族のように、色々なことを一緒に行いここで過ごす楽しさを感じてもらっている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常の入居者様の様子を毎月のおたよりで伝えるようにしている。対応として早く家族様に伝えておいたほうが良いと判断したときは、連絡をとり相談している。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人から家族様の名前やよくお聞きする方等は具体的に詳しく情報収集し、会話に盛り込み馴染の関係性構築に努めている。	コロナ禍の制限下において、積極的交流が出来ない中、日常の会話の中に馴染みの場や人を織り交ぜることによって、関係性の維持が少しでも図れるよう努められています。制限緩和に伴い、可能なことから、交流や社会資源の活用を含め、再開拡充が予定されています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士でも合う・合わない等があり、お互いに良い印象の方と席を近くに設定している。家事の日課活動は協力し合える方同士をお隣さんとし、気配りしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も必要に応じて家族様や退居先の関係者とも連絡を取っている。問題が起こった時でもこちらの対応方法をお伝えしている。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人や家族様の意向をお聞きし出来るだけ意向に沿って支援している。基本は自立支援に向けている。出来ることに重点を置いている。	利用開始時には、利用者本人、また、担当していた介護支援専門員からの情報を、書面に限らず、口頭でも幅広く、生活状況や利用者の日常を含めて収集することによって、生き方や生活面を含めた利用者の意向、思いの把握に繋がられるよう努められています。日々の会話の中や支援時に交わした会話の中からもみ上げられた、思いや意向も支援に反映できるよう配慮されています。	意向や意見を表出できる機会を拡充されると、思いや意向の把握拡充にも繋がられるかと思われます。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人や家族様から生活歴などをお聞きし、このホームでの生活が馴染めるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	このホームでの過ごし方を観察し、出来ることや出来ない事等を見極めている。出来ていることに焦点を当て、継続出来る様に支援している。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議やユニット会議等での内容や3か月ごとのケアプランにおいて、ご本人・家族様の希望を含めて目標が現状に合っているか検討し少しでも出来ることに重点を置き作成している。	3ヶ月に一回サービス担当者会議が行われており、担当職員の意見も踏まえた計画の策定に繋がられています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録を確認し、目標に向かって実践出来ているか、目標が現状に合っているか高すぎないか情報共有し、計画を見直している。		

自己 評価	第三 者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の出来ることに焦点を当て、その方に合ったサービスを提案し、本人の思いに寄り添い実践している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人の出来ることに焦点を当て、その方に合ったサービス(室内や施設の敷地内で出かけること)を提案し実践している。下肢筋力を維持している入居者様は職員と近くに散歩したり、地域での清掃活動等を実践している。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	出来るだけ家族様の希望をお聞きし、協力を得ながら希望の病院に通院している。	利用者・家族の意向によって、かかりつけ医が設定されています。施設の提携医は必要に応じ時間外対応等もなされており、適切な医療提供の環境作りに努められています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	緊急時連絡体制に基づき24時間対応できるようにしている。入居者様の異変に気付いた場合報告指示を仰いでいる。 必要に応じてへ専門医への受診を支援している。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は介護サマリーを提供し、病棟看護師やMSWと連携している。早期退院に向け状態把握し調整している。	入院時には、必要な情報提供を行い、医療への適切な連携が図られるよう努められています。入院途中で経過情報が共有され、得られた情報を基に、家族と退院後の方針等の話し合いが行われています。退院時には、病院との退院調整が行われ、退院後の支援に反映されています。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人・家族様・主治医を含めて話し合い、ご本人・家族様の理解を得た上で方針を決定し、チームで取り組んでいる。	重度化・終末期の指針が策定されており、説明が行われ同意が得られています。終末期には、主治医・家族等も含めたカンファレンスが実施され、利用者の意向を踏まえた終末期支援に取り組まれています。	

自己 評価	第三者 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は急変や転倒等の事故について、研修に参加し実践力を付けている。	/	
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回昼間と夜間時の消防訓練をはじめ、災害時の避難訓練も行っている。訓練の中では地域の方への協力をお願いする係も設定している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念にも掲げているように、一人ひとりを大切に尊重し、プライバシーを保持・対応している。	利用者の否定に繋がるような言葉遣い、問いかけ、話しかけを行わないよう努められています。利用者の尊厳を尊重し、利用者が羞恥心を抱いたり、自尊心を損ねるような言動とならないよう努められています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の希望や思いを表しやすいよう分かりやすい言葉かけや対応するとともに自己決定できるように働きかけている。	/	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の希望に沿いながら過ごしやすい環境を作り、それぞれに合った過ごし方を支援している。 (塗り絵が好きな方は塗り絵を楽しむ)		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	歩行可能な入居者様は比較的自己決定もでき、服等選んでいる。	/	



自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下ごしらえなど職員と一緒にやっている。また後かたづけ等もお手伝いをして下さる。食べやすい大きさに提供している。また好き嫌いがあり、それを考慮して提供することもある。	利用者に楽しさを感じて頂く事に留意し、楽しく食べられるよう、食事の際の雰囲気作りにも努められています。利用者の自立維持に配慮し、食事介助を必要最低限にとどめられています。可能な方は、食事の準備や後片付け等、職員と一緒に取り組まれ、役割として、活動されています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量は毎日データを取り、一日に必要な量を摂取出来るように声掛けや介助している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声掛けをし、取り組んでもらっている。 毎週水曜日訪問歯科往診がある。歯科衛生士による指導を受け清潔保持に努めている。義歯トラブルについて、装着の違和感等なく食事摂取出来る様に相談している。		
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を基に排泄パターンを観察し、特に夜間はトイレへの声掛けやトイレ誘導を行っている。起立が出来ている入居者様は昼間トイレ介助し、オムツ使用を軽減させている。	排泄の自立維持に留意し、介助を最小限にとどめる支援の提供に努められています。利用者の雰囲気や動作などから適切な誘導に繋がられるよう配慮されています。プライバシー配慮にも留意し、羞恥心を抱かない誘導や動向に努められています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分・食事摂取量を把握し、排便の有無等を聞き取っている。便秘傾向や腹部不快等の訴えがあれば温罨法・腹部マッサージ等を取り入れ、廊下での歩行運動なども進めている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の曜日については一応決めている。湯の温度や量などは個々の希望に応じて対応している。入浴剤も好みに応じて利用している。	利用者の意に反することなく、利用者自ら入浴にむかえる支援に努められています。入浴介助を必要最低限にとどめ、利用者の自立した入浴を優先されています。利用者の羞恥心に配慮し、利用者の意向に沿った支援に留意されています。	

自己 評価	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間は早い目に居室に戻り、一人ひとりのペースで過ごされることが多い。居室で休める様に室温・照明・テレビ等環境整備に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員がすべての服薬を理解していない。しかし異常があったとき薬情報等で確認したり、主治医にも相談できるよう連携を取っている。新たに処方された薬の効果についてできる限り翌週には主治医に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日課活動としてのお手伝いや外気浴・行事・壁面製作等を行い気分転換を図っている。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	5月8日から5類に変更となったが、施設としてはまだまだ慎重で施設敷地内でランチ会を開いたり、人気のない公園の清掃活動を行っている程度である。地域の方も運営推進会議に参加して下さる程度である。	コロナ禍の制限下において、積極的な外出が困難な状況が続いていました。制限緩和に伴い、社会資源の活用も含めた、外出機会の再開拡充が予定されています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は小口程度のお金を預かっていることは承知している。ご本人の希望があれば買い物サービスを利用し購入出来ることを支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人から家族に電話を希望している場合は、事務所に来て頂きかけている。家族様については、取り次いでいる。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温調整や効率的な換気を行い快適に過ごせるよう配慮している。窓が大きいのでどうしても眩しく感じ、カーテンを閉めていることが多い。季節に応じて壁面製作を入居者さまと一緒に作り、季節を感じてもらえるようにしている。	温度・湿度・換気・清潔保持に配慮し、快適な空間作りを意識されています。コロナ禍の制限下において、外出機会が制限されていることも踏まえ、季節感を出した装飾を心がけ、毎月装飾内容の変更が行われています。装飾は利用者も参加し、一緒に楽しい雰囲気作りを行われています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで過ごす時間が長いので、出来るだけ精神的にも穏やかに過ごせるように良い関係性を構築できる入居者様同士を隣席へ設定している。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人と家族様と相談し、家族様の写真やお誕生日カードなどを飾り、生活感のある居室にしている。	利用者個々が自宅に置いていた調度品や装飾品を持参され、思い思いの物を配置しています。安全上の配慮を踏まえた範囲で、多くの私物を持ち込まれている利用者もいらっしゃり、利用者個々が好みの部屋づくりをなされています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来ることに重点を置き、トイレの場所であったり、勝手に入ってはいけない所など貼り紙でお知らせしている。		